

2026年(令和8年)
1/31(土)
January
No.757

中日 こども 家族でまなぶ WEEKLY ライオン

中日新聞社

名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052-201-8811

定価 月550円(本体価格500円)
1部150円(消費税50円)

購読申し込み ☎ 0120-454010



https://www.chunichi.co.jp/wadai/kodomo_weekly

アオウミガメの「みえ」の甲羅を磨く飼育員の伊藤 柊也さん＝いずれも三重県紀宝町の道の駅「紀宝町ウミガメ公園」で



アオウミガメ 大切に守る



アオウミガメの「みえ」の甲羅を磨く飼育員の伊藤 柊也さん＝いずれも三重県紀宝町の道の駅「紀宝町ウミガメ公園」で

ブラシで甲羅を磨かれる姿がかわいい！ 子ガメもスポンジで頭を拭いてもらい、気持ちよさそうに目を細めます。大きなカメは、三重県紀宝町の道の駅「紀宝町ウミガメ公園」にいるアオウミガメの「みえ」。子ガメは、みえの子どもで2歳の「コロロン」です。



スポンジで頭を拭かれる子ガメの「コロロン」。きれいになって気持ちよさそうです

飼育員の伊藤柊也さん(27)は6年前から、道の駅にいる約20種60匹のカメたちを世話しています。カメの体を清潔に保つため、普段から体を磨くそう。水槽に入るとすぐに、みえたちが近寄ってきて、「人なつこいカメが大好き」と話しました。交流サイト

（SNS）でその様子も発信していて、愛らしさが大人気です。一方、漁の網に誤ってかかる「混獲」や、沿岸の開発などにより、アオウミガメの生息数は減少。世界各地で保護活動が広がっています。道の駅では混獲されたアオウミガメなどを海に返す活動もしています。伊藤さんは「SNSを通じてカメの保護にも興味を持ってほしい」と願っています。

今週のイチオシ!
取材ノート
築城開始450年
安土城

45面
日本すごい人伝
新選組「鬼の副長」
土方歳三

11面
トントン拍子
ぶるぶるのオートミールプリン

ニュース
1年生
カラフル「氷の城」
岐阜県高山市の秋神温泉で、氷のかべや柱をてんじする「氷点下の森」のライトアップが行われています。今年はしょう明を7色ふやし、えい画「アナと雪の女王」の世界を思わせる高さ6～7m、はばやく200mの「氷の城」をきわ立たせました。